

社会全体の生産性革新に チャレンジする

この度の熊本地震で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、皆さまの生活が一日も早く平穏なものとなりますよう、心よりお祈りいたします。

我が国および建設業界の社会的課題

日本では、2040年までに896の自治体が消滅するという予測が発表されるまでになりました。

これは世界に先駆け我が国が直面している少子高齢化という社会的課題が主因であり、建設業界においても担い手不足という形で影響が大きくなっています。

そこで当社は「課題先進国」の「課題先進産業」の一員として、「本業を通じて社会的課題を解決する」CSV経営にいち早く取り組み「社会全体の生産性革新」に挑戦したいと思っております。

新中期経営計画「MAEDA JUMP'16-'18」

そこで、当社および前田グループがより積極的・直接的に社会と繋がりをもちながら事業を行い、社会・ステークホルダーとともにWIN-WINの関係となる共通の価値を追求し、もって継続的な収益力の強化を実現するための新中期経営計画「MAEDA JUMP'16-'18」を策定しました。

まずコア事業の利益率で業界No.1をめざします。また我々がCSV経営の実践そのものと考えている脱請負事業では、開始間もない我が国のコンセッションにおいて仙台空港と愛知県有料道路の2件を当社グループが担当するという成果を既に挙げており、この分野でのNo.1もめざします。

MAEDAのCSV経営「CSV-SS」とは

「課題先進産業」に属する当社のCSV経営においては、従来のCSV経営では扱われることのなかった、担い手不足など社内存在する社会的課題も解決してまいります。MAEDAのCSV経営は、社員や協力会社の方々も含めたすべてのステークホルダーの満足度向上を目的とする「CSV-SS (Creating Satisfactory Value Shared by Stakeholders)」経営として再定義を行っています。

すべてのステークホルダーの満足度向上のために必要な革新

「CSV-SS」経営を通じた「すべてのステークホルダーの満足度向上」を実現するには、ICTやAI等、高度化する技術に伴い今後ますます複雑化する社会的課題を、当社および前田グループが継続的に解決できなければなりません。そのためには今後、異分野の技術との融合、オープンイノベーションが不可欠になります。そのような「協創」の実現のためにも、当社があらゆる人や組織から「働きたい」「組みたい」と言われる企業にならなければなりません。そのために当社は、今期よりさまざまな革新に着手します。オープンイノベーションを推進する「オープンラボ機能」に重点を置いた新技術研究所の整備もその一つです。

今後とも、皆さまの変わらぬご支援、ご指導をお願いいたします。

前田操治

